

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
E112E002		国語科授業論 (Practical Teaching Theory of the Japanese Language and Literature in the junior-high school)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用	後期	火3	日本語		単独								
担当教員	氏名 花坂 歩 E-mail hanasaka-ayumu@oita-u.ac.jp 内線 7534															
授業の概要	「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」のそれぞれについて、〔知識及び技能〕を考慮しながら、目標、言語活動の充実、指導の実際、評価の在り方を、指導案の作成及び模擬授業を通して、考察する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 子供の認識や思考、学力などの実態及び適切な評価の方法を理解している。																
目標2 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。																
目標3 情報機器及び教材の効果的な活用を考えながら、学習指導案を作成できる。																
目標4 国語科における発展的な実践研究の動向を探究し、他教科への応用性がある授業を設計できる。																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									2	3	3	2				
授業の内容																
1 教科の目標と構造及び評価の現在																
2 情報機器を活用した学習材開発の重要性																
3 学習材の特質に応じた評価規準の作成																
4 「A話すこと・聞くこと」(中学校1学年)の指導案作成、模擬授業及び検討																
5 「A話すこと・聞くこと」(中学校2学年)の指導案作成、模擬授業及び検討																
6 「A話すこと・聞くこと」(中学校3学年)の指導案作成、模擬授業及び検討																
7 「A話すこと・聞くこと」(高等学校)の指導案作成、模擬授業及び検討																
8 「B書くこと」(中学校1学年)の指導案作成、模擬授業及び検討																
9 「B書くこと」(中学校2学年)の指導案作成、模擬授業及び検討																
10 「B書くこと」(中学校3学年)の指導案作成、模擬授業及び検討																
11 「B書くこと」(高等学校)の指導案作成、模擬授業及び検討																
12 「C読むこと」に関する国語科教育史概観																
13 「C読むこと」における教材研究の理論																
14 「C読むこと」における教材研究の実際																
15 総括																
ラーニング	A:知識の定着・確認	指導案作成と模擬授業に取り組みながら、国語の授業を体験を通して論じられるようにする。				工夫	特になし									
	B:意見の表現・交換					その										
	C:応用志向					他の										
	D:知識の活用・創造					の										
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	指導案の作成及び模擬授業の練習。(30h)														
	事後学修	指導案の修正・レポート。(15h)														
	想定時間合計	45														
教科書	『中学校学習指導要領解説国語編』(文部科学省、東洋館出版社、2018、978-4491034706)/以下のものは、ダウンロードでも可:中学校学習指導要領(平成29年 文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年 文部科学省)、高等学校学習指導要領解説国語編(平成30年 文部科学省)															
参考書	『月刊国語教育研究』(日本国語教育学会編)などを中心に、各回の授業内容に即した最新の教育事情を、適宜、資料とする。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	各回の小考	40%										
	指導案作成	40%										
	模擬授業及び口頭試問	20%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	およそ10年の公立高等学校の教諭経験あり。											
実務経験を いかした 育内容	現場実践を念頭において指導案作成、模擬授業を指導する。											